

吉部地区史跡探訪（吉部郷土史話より）

1. 吉部ふれあいセンター

吉部ふれあいセンターは吉部出張所と併設され、地域住民の皆様の地域活性化への願いや将来の展望を視野に入れた設計となっており、外観的には吉部地区の自然や歴史的風土に調和した落ち着いたものに、また内部の1階は、事務室、ミーティングルーム、調理実習室、和室、多目的ホール、2階は視聴覚室や郷土資料室等を配し機能性の高い建物で、平成10年3月に完成した。

構造 鉄筋コンクリート一部2階建て 瓦葺き
事業費 2億9737万2千円（土地購入、備品費を除く）
延べ床面積 809.81㎡ 1F=644.66㎡ 2F=165.15㎡
建築面積 747.32㎡
工期 平成9年7月～平成10年3月

2. 船木鉄道跡

大正5年（1916）9月、船木鉄道が宇部船木間に開通、続いて万倉まで延長し、同13年（1924）4月、万倉吉部間の延長工事に着手、同15年、今富まで延長、更に同年11月吉部まで完成した。待望の吉部全村民の喜びは思うに余りあるものがあり旧態は一新した。一つの鉄道ができたことは、ただ交通の便がよくなったという一点にとどまらず、政治に産業に経済に教育に、そして文化にとあらゆる面が飛躍的に変化し発展した。

しかし、喜んだのも束の間、昭和2年（1927）頃から、世の中が不景気になり、経済不況・金融恐慌の聲が巷に充ち、昭和6年頃から満州事変・上海事変が勃発、昭和12年（1937）に日中戦争に突入、昭和16年12月には米英に対し宣戦布告、世にいう「太平洋戦争」に突入した。しかしながら、戦局の悪化に伴い、鉄不足を補うため昭和19年3月頃、吉部万倉間の線路が撤去され、現在に至っている。

今でも鉄道敷が各所にあり、トンネルも1ヶ所吉部地区に残っている。

3. 吉部八幡宮（寺尾八幡宮）

宇部市東吉部字寺尾に鎮座し、おうじんてんのう 応神天皇、かみこうこうこう 神功皇后、ひめおおかみ 比売大神の3柱を主祭神として祀り、すさのおのみこと 須佐之男命、あめのみくまり 天水分神、くにのみくまり 国水分神、くらいなだのかみ 倉稻魂神、ざるたひこのかみ 猿田彦神、わたつみのかみ 綿津見神、おおとしのかみ 大歳神を合祀する。

由緒

第90代かめやまてんのうこうちょうがねんかのとりとし 龜山天皇弘長元年辛酉年（1261）ことうだけとも 長門領主10代厚東武朝の弟、ものべだけ 物部武村の命によりのむらおおいのすけ 野村大炊介、のむらさえちんのじょう 野村左工門尉の2人をむぜんのかくにうさはちまんぐう 豊前国宇佐八幡宮に遣わし、御分霊を勧請（お願い）して宮殿を造営し、同年8月本殿に奉祀（神仏をまつること）し右2人を神主として奉仕させた。

後、長門大内氏の領となり、大内義隆が楼門一字を奉建し「八幡宮」の3文字を自書し奉額する。社殿は弘長元年の創建より平成11年（1999）にいたるまでに9回の造修を行った。

重要宝物 太刀1振 木造漆塗地藏菩薩座像
年中行事 1月 元旦祭、どんど焼き神事
2月 節分祭、星祭、紀元節祭
4月 春季大祭、御神幸祭、祈念祭
8月 天満宮御誕辰祭
9月 風鎮祭（豊穰祭）
11月 秋季大祭（芋煮え祭）、御神幸祭、天神祭
12月 新嘗祭併せて神道講演